

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆大企業製造業の景況感、5四半期連続で改善 日銀6月短観

・日銀が発表した6月の全国企業短期経済観測調査(短観)で、大企業製造業の景況感が5四半期連続で改善。中東情勢の緊迫に伴うエネルギー価格の上昇が重荷となるなか、半導体など人工知能(AI)関連需要の増加が景気を支えている。業況判断指数(DI)は前回3月調査から5ポイント改善しプラス22。約8年ぶりの高水準となった。

◆防災白書、企業と個人に自発的対策促す BCP整備の重要性明記

・政府は2026年版の「防災白書」を閣議決定。南海トラフ地震などの大規模地震や津波に関する最新の被害想定を踏まえ、企業や個人に自発的な防災行動を促す。「国難級の地震・津波」をテーマに、地震や津波のメカニズムを整理し東日本大震災や熊本地震などの教訓を記載。企業には事業継続計画(BCP)の整備の重要性を説いた。

◆6月の消費者心理、2カ月連続改善 基調判断「弱含み」据え置き

・内閣府が発表した6月の消費動向調査で、消費者態度指数(2人以上世帯、季節調整値)は前月より0.2ポイント高い33.8。2カ月連続で上昇。基調判断は「弱含んでいる」を維持。指数を構成する4項目のうち3項目が前月から上昇。「暮らし向き」は0.8ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は0.2ポイント、「雇用環境」は0.1ポイントそれぞれ上昇。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆6月日銀短観、設備投資の意欲崩れず 26年度は6.8%増加計画

・日銀が公表した6月の全国企業短期経済観測調査(短観)では、2026年度の設備投資額の計画が全規模・全産業で前年度比6.8%増加する見通し。3月時点の横ばいから上方修正され、中東情勢の緊迫を受けても堅調な人工知能(AI)需要が支えとなった。25年6月調査(6.7%増)を上回り、同月の調査としては21年から6年連続でプラスの伸び。

◆「フラット35」、7月の最低金利4カ月ぶりに下降

・住宅金融支援機構は住宅ローン「フラット35」取扱金融機関が適用する7月の融資金利を発表。返済期間21年以上35年以下の最低金利は、融資率9割以下が3.14%、9割超が3.25%と、いずれも前月から0.07ポイント下がり、4カ月ぶりに下降。最高金利は、9割以下が5.40%、9割超が5.51%と、前月から0.08ポイント下降。

◆路線価、都心オフィス需要がけん引 東京は平均9.4%上昇で全国最高

・国税庁が発表した2026年の路線価(1月1日時点)で、東京都の標準宅地の平均上昇率は前年比9.4%。全国平均の2.9%の3倍超となり、全国最高。都心のオフィスビルは空室率が1%を切り、価格高騰が続く。海外からの投資マネーも上昇幅を押し上げ。路線価は主要道路に面した土地1平方メートル毎の標準価格、相続税や贈与税の算定基準に。

《 注目商品 》

■三和シャッター工業、手動窓シャッターをシャフト交換だけで電動化

・既設の手動窓シャッターを電動化する「マドモアチェンジ」に新モデルを追加。従来のモデルではシャッターボックス内に別置開閉機の設置スペースが必要だったが、新モデルは開閉機を内蔵したシャフトの交換だけで電動化でき、窓シャッターの電動化が可能。



■キムラ、空調アシスト換気扇

・間仕切り壁に設置して、空調がある部屋から空調のない部屋に冷暖房の空気を送る空調アシスト換気扇。空調がない部屋に安定して空気を送り込むために、高静圧・大風量の高性能ダブルシロッコファンを採用。シンプルなデザインは壁と一体化し意匠性を損なわない。



■ソーラーLEDに電球色、コンクリート打設不要な乾式基礎も

・フクビ化学工業は、電源不要のソーラーLED屋外照明灯「ルメナイト」「ラヨビア」のラインアップに、温かみのある「電球色」を追加。ソーラーパネルと支柱を一体化させた垂直配置ソーラーユニット。電力系統への工事が不要で、災害時に電力供給が止まっても明かりを確保。

